消[illegible]代[illegible]集　四

袋草紙巻四

俊綱朝臣家ニ詠水上月哥講之而田舎兵士中門辺ニ宿テ聞ニ此事予青侍ニ語テ云今夜ノ題ヲコソツカウマツリテ候ヘトイヘハ侍云有興事也如何兵士詠云

水やそらゝや水ともみえわかれ
かよひてすめるは秋のよの月

侍来テ申此由万人驚歎テ詠吟テ且感且恥テ各退出云々

俊頼言上ニ向ノ雀磨ヲ閑ニ砂ヲ洛ニ和哥ヲ
而ノ大宮先生藤原ノ義定之ヲ
わさおもことおもひしかとこゝにこそ
なほへのよれもよつゝみてわかにも
人ノ感歎良ス進カ云ク女メ牛ウシニ腹ツカレタルヒカコト
トニ云ヿ自ヲノツカラ有ル如マキノ此ノ叓モ也
能宣ノ又頼基ニ語テ云ク先日入道式部卿ノ御子ミコ
日ニ宜哥ヲ仕テ候頼基問之ヲ如何能宣ノ云ク
ちとせまてかきれる松もけふよりハ

きミにひかれてよろつよやへむ
世以テ称スレト宜云ヿ頼基暫リ詠吟シテカタハラナル
枕ヲトリテ打テ能宣ニ云ツ慮外ナリ昇殿有ル帝王ノ御子ノ
日ノ之時ハ以テ何カナル哥ヲ可キ詠スヤ哉ワサワヒノ不覚人哉ト
云ヿ能宣須臾ニ起テ逐電スト云ヿ
大様意ニ染ミヌル叓ニハ宜哥モ出来ル者也然レハ者道
雅ノ三位ハイト哥仙トモ不ルヲ聞ヘ齋宮ニ秘カニ通テ閑ニ哥
ハ多リ秀逸也所謂
あふさかハ[illegible]

こゝろざし[illegible]
いまはたゞおもひたえなんとばかりを
人つてならていふよしもがな
オタヘノハシヤコレナラムユフシテカケシソノカ
ミニナクヨリホカノナクサメソナキ等也
此外ハ不聞者也思ニノ事ヲ陳ハ自然ニ
秀哥ニシテアル也是志在中詞顕外之謂歟
此齊宮ハ三条院第一皇女也密通之由風
聞シテ自上ニモリメ被付テ難通之間戀慕ノ

哥也或人露顕之後宮出家又身ニ大瘡共
多イデヽ薨去云々
能宣朝臣齊院宰相ト嫁ノ後五月五日ニ所送
哥
うらしまへよおもふらしよりあやめくさ
よるひとこさまのをともしらぬかれ
無幾事歴数日聞病悩之由到其家人曰亡
後歴八旬ヲ有遺書被見之時
[illegible]

おもひしあやしき袖の[illegible]れはなりとて

イノリケシコトハユメニテカキテヨトモ此間章

也

小一条院女ノ許ニテ暁ノ口子ヲキヽテヨミタヘル

あさほらけのかれのこる霜こそきこゆなれ

これはいわあひとおもはよし人

或人ノ云ク是ハ連哥也院暁ニ起サセ玉ヒテクチスサヒ

タニヒケルニ末ハ女ノ申ケルト云々但又疑フ説

ニハ依テ此ノ哥ニ罪業甚重シ之由云々然レハ者皆院ノ御

作歟

能宣逝去之後四十九日ノ中ニ叙爵シテ侍ル

之由輔親ノ許ヘイヒツカハストテ

いろくよみしひやはかれすそみのたもともあけになれるをおもふ

返事ニ云ク

すみそめのあけのころもになれはなをなみたのかかるはかりなりけり

なからへて[illegible]

輔親ハ長元七年十一月五日叙三位十月卅
日殊勅以神寶奉伊勢使三叙献碧
珠一顆於神宮奉仕御祈之間自然在宝殿
前樹云〻此賞也但同九年後一条院崩御云〻
輔親ハ長暦二年正月為月次使下伊勢之
時於途中卒去云〻
義忠ハ為大和守之時遊浮吉野河之間入
水死去云〻
中関白為少将之時語赤染之兄弟女而忘

給之後彼女奉寄関白日暮巻上南面簾テ
ナカメ居然間直衣人寄香甚入来彼酸也女
有恍心會合其後夜〻来但暁夕無車馬音
以長緒着針着直衣袖朝此緒留南庭樹上
其後無来是魅之所為欤又件女懐妊臨期
産一胞衣開之見之多有血無佗物云〻見
江記赤染哥
やすらはてねなましものをさよふけて
かたふくまての月をみしかな

江記云赤染ハ赤染時用女也依テ歴石衛門
志尉等号赤染衛門實ハ兼盛女也離別彼
母之後稱有女子欲尋取之處母惜而稱不
然之由相論之間爲適撿非違使時用沙汰
之間而彼母密通相住之間弥稱非兼盛子
之由深稱時用子云〻兼盛可令對面之由申云〻
素性ハ住石上良因院仍寛平法皇宮瀧遊
覽間号之良因朝臣而付此名稱入道之人
尤僻事也入道ハ素性舍兄也爲左近將監

誦文遍照許而遍照云法師子ハ法師ナルソ
吉トテ推令剃頭云〻
天平勝宝元年遣唐使中有副使陸奥介従
五位上至手人丸山城史生道人丸者而祢
本人丸集中ニ有入唐之時哥若此輩欲但
大使正五位上勲四等大伴宿祢佐手丸妻
字。荼刀自於途中爲海神ニ被取端正美麗
之故也悲歎之間彼是各詠哥而無人丸兩
人之哥非標下之趣頭然已今度爲守護表

哥神達大和国アムノ大明神山城アタノ神出
雲土河越中ノツクハ子ノ神越前氣比ノ神
信濃スハノ大明神八所云〻今二所不詳如
何
愚云大和亚郡神岳神社　山城粟神社然可考
元年四月二日進發同年十月廿九日到唐
風門泊返哥六月十七日登帝御在所同年
四月三日出唐同九月廿四日到紀伊国云〻
見佐手九記
故物語ノ哥ノ入撰集ハナシト申カヤ後拾遺

雑一ニ藤為時哥
わきらむをわなみをと契りし山ほとよ
契りふことなまほもすみにほし
是ハ源氏物語哥也彼物語ニハイリヌトオモ
ヒレト侍カヤ作物語ハ紫式部カ所作也為
時ノ女也仍詠歌紫式部ト云名有二説一ニ此
物語ニ紫巻ヲ作甚深之故得此名一ハ一条
院ノ御母之子也而上東門院ニ令奉トテ吾
ユカリノ物ナリアハレト思食ト令申給之故

右此名武藏野ノ義也
猿丸太夫家集最先ノ哥ニハ
さゝらすけおよひてまよひゆくゆこさ
きこえよあをくむらよおもきくはら
此ノ哥如キハ萬葉集高市里人ノ妻ノ哥也若シ猿丸太
夫ハ件ノ人歟然ラバ者女房也而ニ如キ家集ノ者送ル女
許ニ之哥ナラハコレ男也集ノ失歟又一ノ、榛原ニ在ル萩
由ノ之處萬葉集ニ寄ル木ニ哥ニ詠ムル之有リ不審但シ
摺リ衣ノ之由多ク詠ス是レ大萩歟仍テ取ル木ノ部ニ歟

重之哥ニ云ク
やかすともくさはもえなむかすかのは
たゝはるのひにまかせたらなむ
コレ在リ忠相集ニ御屏風哥也随テ無ニ重之集ニ而如キ
十五番ニ用ニ重之哥ニ如何
八幡臨時祭ハ先ノ朱雀院ノ御時被ニ始メ行ハ也件ノ
哥ハ貫之之拳之其ノ哥ニ
松もおいてまたもこけむすいはしみつ
ゆくすゑとほくつかへまつらん

又云

ほしのよ流れけらぬくかけみえて

たふへくもあらぬよろ流よおもけ

而シテ能宣カ集ニ冷泉院ノ御時始テ石清水臨時祭

行ナヒ給ニ可キ唱フ之哥奉リ之侍シニ

君かよにこすゑのふくそらに流れ

なかれさらよに流れつきせらん

此ノ時更ニ又被ル改メ哥ヲ欲スル尤モ不審ナリ

オソクトクツヰニサキヌル梅花トイフ哥ハ貞

信公哥云云而シテ公忠ノ辨集ニ云ク枇杷大臣左大臣

ニ成リ給ヘル年ノ春。御慶ヨロコビニ。オホキヲトヽ、オハシ

マシタレハ。御アルジヨナクツカフマツリテ。御カ

ワラケアニタヽビニナリケルホトニ。権中納言

敦忠ノ君ノ。御前ノ梅花ヲカザシテ

おそくとく流めるよはかよぬは梅のはな

たかうへおきしたねなるらん

オホキヲトヽ、

おもてえはかくれはふれ梅のはな

みつひよ海よあらかきちらして
集可考之
ツカウニツル
いろもかもとしのよ海よ梅ぬまれ
ろうひよほかうちまれ
如キ此ノハ敦忠卿ノ哥欤
等由静慮哥ハ或ル人恵亮和尚ノ哥ト云フ而ノ如キ
堀川右大臣集ハ山ナル僧
ゆめるまれすいつ静恵よゆりきまや
風(フウ)射(ヤ)なくてちらしも秋りへハ

返変大臣
ゆろまれすいつ静恵よゆりわども
眼(ゲン)識(シキ)なくていらく縁(エン)ぞなき
又僧
ゆろまれすいに静恵よもしゆは
下なれ眼(ゲン)識(シキ)かありて縁(エン)ぞなき
返変
下地の識かありて家むぞばゆろまれ
よしとはえくしい無(ム)記(キ)よおとして

如此ハ非惠亮哥欲惠亮ハ惟高親王ノ御持僧也彼大臣ニ不可逢年紀玄隔也尤不審但往年更聞キテ今答之欲寂後返哥同大臣答也此哥等ノ心ハ色界ニハ凡有十八天也其中ノ上ノ九天ヲ第四静慮トハ云彼所壊刧之時モ風灾ノ不到也臣不寄所之故如此詠眼識ナクハトヨムハ彼所ニハ無五識也五識トハ眼識。耳識。鼻識。舌識。身識也。物ヲ見聞ト思時ハ初静慮ノ識ヲ借也初静慮ハ下地也

然者次哥ニハ下地ノ眼識借テ縁セムトハヨム也縁ハ。モノヲ。キヽモ。モレ。ニモスル意也。終哥ニハ無記トヨムハ借記ノ識ハ無記也無記ハ物ノ善悪ヲ不見究竟之名ニ無色ト云ヿ

式部寂後哥云

よる眼ハ下地眼識かなふとも
うつりもれおほはいへて縁きむ

但此ハ識不叶云ヿ

後拾遺三条院御製云

こゝろにもあらてこのよにながらへは　にう

こりしかはへまよよのはかれ
此哥山科抄ニ六三条院御コヽチヨロシクアリケルヒニ三月ヲ御覧ジテ。心ボソキコトドモキコエサセ給ケレバ皇后宮ノヨニセタニヘル御哥ト云
何説ヲ可用哉但皇后宮ノ御哥ニ義叶欤
金葉集八幡別當光清哥云
なすことに秋をそてなつかしかの
おもひかへしてはなをこふらん
此哥ハ藏人君意尊此集撰之比十月許参詣八幡テ聞鹿鳴テ詠也而後日向俊頼亭有忌之事不對面仍紙端ニ書此哥テ以小兒一日此歌八幡所詠哥也而光清哥ト存テ入之云々
意尊哥ハ又惡部有一首
あはれともなるらんよのはおもひそよ
わかれをへいのちふさしくうと
是ハ於左京御許テ詠哥也コレ、ヨミ人シラズトテ入之一首ハ稱人哥一首ハ讀人不知

之レ殊ニ阿党難キ堪ヘ之由所々ニ祈リ行フ之者也乞モ
有リ謂レ

希代ノ歌

神明ノ御歌

大神宮ノ御哥

さかつきにさやけきかけのみえぬれは
ちりのおそれはあらしとそおもふ

是ハ長元四年六月七日祭主輔親参ニ斎宮ニ
之間俄ニ雨下リ風吹セテ斎宮自ラ託宣シテ帝ノ御

事ナムト被レ仰セテ御ミキタヒくメシテ盃給ト
テ詠シ給フ哥也輔親奉ル御和ヲ云

おほちゝむまこすけちかみよまてに
いたゝきまつる宮をおかみし

ねかもれなかれもよるか露にしの
あやよところな久なけくまろかれ

是ハ大中臣輔弘無キ闕之時祭主事ヲ祈念シテノ
子タル夢ニ云ヘル哥也

宇佐ノ御哥

ありきれはおれはみまてふこゝろをきよめ
まゐこゝろをわれわすれめや

是ハ孝謙天皇弓削ノ法皇ニ譲リ位ヲ和氣ノ清麿ヲ為テ使ト令メ申サ宇佐ノ宮ニ給フ之時帰リ来テ奏ス不ルノ許サ之由ヲ仍テ法皇怒テ清麿ノ足ヲ切テウツホ船ニ乗テ流スト云フ時宇佐ノ宮ニ流レ寄リ彼ノ神清麿カ清廉ヲアワレミテ誦ニテ此ノ哥ヲ清麿カ膝ヲ撫テ給シ時ニ足満足スト云フ和氣氏ノ祖也

賀茂御哥

我〳〵おもふ人いつもよなしなくてハ
まことやわかそのはなよりわりう
ゆふまきかくはれはわりうつし
ひはさゝゆくにならむまれしき

此ノ次ノ哥ハ寛弘元年十二月七日ニ高遠卿愛ニ所ノ見ル也年四十計ナル女人捧ケ青色ノ紙ニ書テ賀茂ノ上ノ御社ヨリノ使ト稱シテ来テ云フ此ノ文ヲ取テ之開キ見レハ此ノ哥一首アリ此ノ後拜任ス大貳ニ云フ事見タリ家ノ集ニ

平野御哥

しらかへのみかとのおやのおほちこそ
ひらのゝ神のこゝろなりけれ

今案白壁ハ光仁天皇也其曽祖父ハ舒明天皇其曽祖父ハ欽明天皇也是平野明神云〻

稲荷御哥

なかきよをいのりてまつおもへうし
あまなけれらんかわおやとをもたる

是ハ近年叓也或僧聊有相論叓稲荷ニ百日参詣祈念スル夢ニ見ル也云〻

春日御哥

ふたらくのみなみのきしにたうたてゝ
いまそさかへんきたのふちなみ

或人云是ハ南圓堂ノ壇突之時翁出来テ寠此壇トテ誦此哥春日明神ノ變化ト云〻

大原野御哥

ちよのはるおりつゝきるもあまりなかれ

けとみてもみよくはゝはやなよ
是コモリタル修行者詠之ヲ
なにとすはこのよくかせちわかそてぬ
れゆのいのちをなよかけよし
此哥ハ御返答ナリ又或ハ云フ此ノ哥ハ三ノヽ国山形郡
三輪ノ社ノ神ノ哥ト云ヿ
三輪明神ノ御哥
こひしくはとふらひきませわかやとハ
みいのやまもと杦たてるかと

古今ノ哥歟但上下ヒリ又彼集ニハ不レ注此ノ由ヲ
住吉御哥
よやさむきころもやうすきかたそきの
ゆきあひのまよりしもやおくらん
是ハ社破壊ノ之由奏セヨ帝王ニトテ見ル夢ニ哥也
すみよしのきしもせさらんものゆへに
ねたくや人にまつといはれん
詫宣ノ御哥ト云ヿ
むかしよりしと君をまもりてはやひとはかよの

ひさしまよいわいるみくの絶てま
于時明神現形シテ答ヘ給哥ト云〻或ル物ニハ此ノ
本哥ハ慈覚大師ノ哥ト云〻

北野ノ御哥

つくるともまたもやけなむすかはらや
むねのいたまのあはぬかきりは

是ハ圓融院ノ御時内裏焼亡シテ造営之間被ルレ造ラ
裏板ニ蟲ノ喰ル哥ト云〻

貴布祢ノ御哥

おくやまにたきりておつるたきつせの
たまちるはかりものなおもひそ

是ハ和泉式部詣貴布祢ニテ詠ノ云モノオモヘハサ
ハノホタルモワカミヨリアクカレイツル玉カト
ソミル于時男ノ聲ニテ式部カミヽニ聞ヘケル哥ナリト云〻

熊野ノ御哥

みちとをしとしもやうやうおいにけり
おもひおこせよわれもわすれし

是陸奥国ヨリ毎年ニ参詣シケル女ノ年老タリ

之後夢ニ見ル哥也

天宮御哥

キヌカサタテニツラムト立テ願テスクレケル人ニ
示シ給ケル

おほきくきぬかさやまをまみねハ
ぬれくろふはあめのしたにはは

蟻通明神ノ御哥

なゝわたるまかれるたまのをぬきて
ありとほしともしらすやあるらん

是昔彼ノ明神ノ紅追ニ旅客ノ宿夢ニ示シ給フ
哥ト云〻

新羅明神ノ御哥

かくふねよりわたりもりみとこしかひハ
まそくはものをこゝのとよわよ

是ハ智證大師皈朝ノ之時為メニ守護ノ従リ新羅ニ来リシ神
也今ニ在リ三井寺ニ云〻

佛ノ御哥

中比或僧夢ニキヨケナル僧三人寄合テヨ

ミケル哥 一人ハアワレナリ 次ノ僧ヒハクレカタ
ニナリヌレト 又次ニシヘユクヘキ人ノナキカ
ナ 是ハ無疑佛菩薩欲見定頼集

あはれとてみるらむちゝはゝもあはれもおも
いつかいのちのよとてたのむなるらん

是ハ行ヲツトメテ。クルシガリケレバ。暁方ニ。ト
ロメル夢ニ。小僧枕ノ上ニアリテ。イヒケル哥ナリ

かくなからちりてふかせのふくらしなく
ちはのうらみのこさはしかれ

是ハ少将聖人ト云人後生ノ事ヲ思テ子ヌル
夢ニ見ル哥也

おとろきてゝもおもひそねとゆふくれの
あかつきのひゞきにしるきこゑなれ

シノビテ。オコナヒシケルニ。カ(蚊)ノクヒケレバ。アフキ
シテ。ウチハラヒツヽ。子フリケル夢ニ。僧ノ讀
カケヽル哥ハ蠅也。詞ハ蚊也。如何

清水寺ノ観音ノ御哥

なほたのめしめちかはらのさせもくさ

わかよのなかにあらんかぎりハ
物ノ思ケル女ノハカナクシカルニシクハシナムト申
ケルニ示ケル
なにのおもふなにのなけれよくめやハ
こゝあかりほのまれのうへのゆ
ものまためるこは枝よとれのみらく
まれけれくとなりわりなお
此ノハテノ哥ハ。ニヅシキ女。清水寺ニ。百日参リ。ナ
クク祈念スル夢ニ。御帳ノ中ヨリ。小僧出来テ

云ケル哥ナリ
六角堂ノ観音ノ御哥
とへかしれあしひきやのよちかよよ
こゝおくてきれなはハもおのハ
あやしくしなわのとこのまことへぬは
かせのすはあとかよころえむ
此ノ次ノ哥ハ故白河ノ院三条殿ニ御テノ六角堂ノ
百度ニイリ人ノ無キ往反之路ニテ退轉之時人ノ
夢ニミエケル哥也此ノ後三条殿焼亡スト云
ヿ

やまふかみなどうしふかきわけてあはれなるをいはちの月みてそ、ゆくらん

是智縁上人伯耆ノ大山ニ参テ罷出ケル暁ノ夢ニ云ケル

辯才天詩

三千世界眼前盡　十二月縁心裏空

上ノ句ハ於竹生嶋ニ都良香案也下ノ句不能思得而其後夢ニ辯才天所被示云々

天人哥

をとめごがをとめさびすもからたまををとめさびすもそのからたまを

淸御原ノ天皇彈琴給之時神女降テ舞ノ哥云々

仙人哥　松浦仙答哥

たましひはかたちのなしといふなれど
君がやどにはしばしあれ

権化人哥

聖徳太子　救世観音化身也

しなてるやかたをかやまにいひにうへて

ふせるたひ人あはれおやなし

達磨和尚　文殊ノ化身

いかるかやとみのをかはのたえはこそ

わかおほきみのみなはわすれめ

是ハ達磨餓人躰ヲ作テ伏ヲミテ太子讀給返哥也

行基菩薩　文殊化身

法華経をわかえしことはたきゝこり

なつみみつくみつかへてそえし

霊山の釈迦のみまへにちきりてし

しんによくちせすあひみつるかな

波羅門僧正ノ答哥

伽毘羅衛にともにちきりしかひありて

文殊のみかほあひみつるかな

是ハ東大寺供養ノ導師ニ被請テ来臨之

時於難波津船ヨリ下リ給時行基波羅門ノ手

ヲトリテ詠給哥也波羅門ノナハ菩提南天

竺伽毘羅衛国人也天平勝寶ノ比也

傳教大師

阿耨多羅三藐三菩提のほとけたち
我立杣に冥加あらせたまへ
是ハ中堂建立之材木取ニ入レ杣給之時哥也

弘法太師
かくはかりたるまをしれる君なれは
たゝまやうまくしいる係なりにけり
いふならぬなゝくさこそいれぬれハ
せちかもすこしもわかほとけなりけり

慈覚大師
おほそらにすく係は日をなかむれハ
わのこゝろーの法も係なかりけり

日没偈之意也
やまのはにかたふく係なれハわかねとし
あまねきまほハおのかものゝゝ

薬草喩品之意也

慈恵僧正
うれしくのそのゝみハなをあまねかし
そのむしろもなかやまぬらん

右、樹下集ニ天台大師忌日ニ詠之千僧賛ノ一ヲ
之意也

空也聖人哥

ひとたひもなもあみたふといふ人の
はちすのうへにのほらぬはなし

書市門哥也

聖寶僧正

あれのなかにあらそひてわけゆくは
こころうとしもちかねつらなる

是ハハヲハジメニテハテニテヨメル哥也

玄賓僧都

みわかはのきよきなかれにすすきてし
わかなをさらにまたはけかさし

惠心僧都　源信

これハこれほろひすてぬはなれは
みちなはかはねとこそみえけれよ

是ハ道路ナル死屍ヲ見テ詠也

檀那僧都　覚運

なにはのうみかしらん人のみくかうん
きよのまをすてぬといふよやすみはらん

奝然法橋

よにふるもさらにみちのとをゝれも
いはんやもぬもぬかとわしうまれ

是ハ入唐之時イツバカリ可皈来ト人ノ尋ケレバ詠ル哥也

千観内供

はかなしやほどなきよしかと

流とゞめてこゝろはさこそなかれとも

増賀上人

これは江にやうらあよわのおもひのなき
くらけのほねよあらよこはすれ

書写上人性空

ちとせふる松こそよゆるよのうちよ
たゞふもしらてたそはかれかれ

是ハ松樹ノ切クヒニ火ノモユルヲミテ詠ル哥也

佛神感應哥

貫之

かきくもりあやめもしらぬおほそらに
ありとほしをはおもふへしやは

是ハ貫之紀伊国ヨリ上洛ノ道ニテ俄ニ乗レル馬ノ不行之處道行人ノ云然ハ此處ニイマス神ノ所為ナラム年来社モナクテシレル人モ不侍ドイトウタテ御座神也先如此ノ事ハ侍ト申ケレハ御幣モナケレバ只手ヲアラヒテヒザニツキテ神イマシゲモナキ山ニ向テ抑ナニ神トカ申ト問ヘハアリドホシノ神トナン申ト云ニ讀ミ申ス哥也其後忽ニ起テツ子ヨリモ駿也云々

赤染衛門

かはらむとおもふいのちハおしからて
さてもわかれんことそかなしき

たのミてハひさしくなりぬすみよしの
まつこのたひのしるしみせなん

ちとせよとまたみとりこそあらはしよかも
まつすみよしのまつをおほよ

是ハ江擧周和泉ニ去任之後重病惱而有住吉之御崇之由仍奉幣彼社之時三本幣ニ各所書哥也其時人夢ニ白髪老翁社中ヨリ出来テ取幣テ入其後病平愈云々

能因

あまのかはなはしろみつにせきくたせ
あまくたります神ならは神

是ハ實國朝臣爲伊豫守下向之時數月不雨降民歎思之時守相語能因云詠哥可祈請三嶌明神云々于時所詠哥仍大雨下テ三日三夜不止云々

經信卿

君かよはつきしとそおもふ神風や
みもすそかはのすまむかきりは

是ハ承暦二年殿上ノ哥合也其後或人ノ夢ニ唐装束ノ女共並居テ詠吟各感歎云々依此哥

帝王ノ御寶算可ト増長スト云コ遂ニ七十七ニテ崩御
云コ
おもハしのかハおなのれハあゆけまとた
はるのふかよるつかうね
是ガ参詣スル熊野ニ之女ヲトナシガハノ邉ヨリ被返
テナクナク詠スル之此ノ後無事参詣ス
津守ノ國基
まふれとおもひけるれしてわのおうらに
いのちよるなかぬもはしまひかん

是ハ堂建立之時壇ノ石取ニ紀伊ノ國ニ渡ニ
若浦ノ玉津嶋ニ神社アリ尋ネ聞ケハ衣通姫
ノ社所ヲヲモシロカリ給テ神ト現テ垂跡給
也ト彼ノ渡人申タリケレハヨミテ奉ル也其ノ夜夢
ニ唐縣ニ上テ裳唐衣キタル女十人計出来テ
ウレシキ慶ニイフナリトテ可キ取ル石ヤウモ教之夢
サメテ如ク教ノ求ル之ニ 如ク夢ノ告ノ有リ石今ニ打破之ヲ一
度ニ十二顆ニ破テ壇ノ飾石ニ尅ムト云コ
修理ノ進 其妹

おもひいづやなき名のたつはうきものと
あらひとかみとなりしむかしを
是故待賢門院中宮之時女房裝束一具失リ宮
中皷動然女或房女房被嫌疑仍泣〻參籠
北野所詠哥也其後實犯出来　半物敷嶋也

故顯輔卿
名をたてゝてらしおもひよはすかくし
たゞいはのわしこそもりあらすすれ
是白河院御在生之時依人讒言無實出来テ

御氣色不快之時大唐鏡ヲ進北野トテ鏡
臺ノ裏所書哥也其後無實露顯云〻雖末
代無陵遅叓也

江都督
堯母廟荒春竹深一掬之涙徐君墓古秋松
懸三尺之霜是於安樂寺行曲水宴自所書
之序文也披講之時御廟鳴云〻肥後大進
忠兼語云下向肥後之時有故老之府官語
云件曲水宴之時文人云〻仍同廟鳴實否

答テ云ク實也始メハ御後ノ山ノ方ニ響キ鳴其聲近ク了也
而テ漸ク近ク聞テ後チ御廟ノ中ニテ聞ヘヌト云了

亡者哥　小野小町

秋かせのうちふくことにあなめ〱
おのとはいはしすゝきおひけり

人ノ夢ニ野ノ途ニ目ヨリ薄ノイタル人アリ。称小
野ト此ノ哥ヲ詠ス夢サメテ尋テ見ルニ有一ノ髑髏目ヨリ
薄生ヒ出テタリ取リニ其髑髏ヲテ閑所ニ置キヌト云ノ此ニ
知ヌ小野ノ屍ナリト云了

義孝少将

志かはかりちきりしものをわたりかは
かへるほとにはわするへしやは

是ハ。死テ。スト。モ。シバラク。トカク。ナセソト。イヒ
ケルヲ忘ニケレバ。妹女ノ夢ニ見ケル哥

志くれとはちくさのはなそちりまかふ
なにふるさとのそてぬらすらん

昔ハ契リ蓬莱宮裏月ニ　今ハ遊ブ極樂界中風ニ
是ハ賀縁闍梨ノ夢ニ見ヘル也

またなれしころもおもてもかはらぬよ
わかれし秋をなかなかなのれ

又ノ年妹ノ夢ニ見之ヲ

高遠卿

たちをへりこかれはけやらむ
きつゝぬやまよりおもひとあまとふを

薨去之後忌日ニ籠ケル僧ノ夢ニ見之

おくやまあか思ひしきつゝぬやまとる
あまれいくよあふこすきんとはらん

酡道ニ落之由ヲ示テ息子ノ夢ニ見之

公信中將逝去之後

むかしはけるとなりておもひしん
ねられもえてのやまはこへはすし
あふとをうれくれもいてまてと
ともちなくていあふよしもかし

長濟律師

たしちゆんおなけおちやてわれしてれ
おもひのきつまなほうかれしま

是卒去之後母ノ歎キテ子タル夢ニ見エケル
橘為仲朝臣
おもひよやとこよれ心のとちおもひ
はゝかゝらやおをしをふへしとは
是保安二年十一月十一日夜頼孫保昌ヲ
夢ニ為仲公家ニ参スト テ申文ヲ書キテ見合セ
侍ルヲ書ノハシニカキケリケルトソ見タリ家集ニ
堀川院御製
秋の世の月のいかなるおとにはなるまれ

清ミやとをいくらかはかれ
是ハ崩御之後或人ノ夢ニ見之ヲ
右大将通房カクレ給テ後宇治殿御夢ニ見エ
御哥トテ見ケル
ゆきとしひのはかなくあらはみえしかと
こゝしよやとみえよとふところのれ
右少辨定通
ふるさとにかよふ心のまよひ秋をかへるふれは
やとせをなかめする時の月

逝去ノ之後経テ年ヲ序ニ或ル人夢ニ月明夜殿エニ
候スル也トテ詠ズル哥也新院ノ因幡内侍ハ彼ノ辨ノ物
申シケル人也然ルノ夏ヲ聞テアハレガリテ子タ
ル夢ノニ○三エケル哥

おもひいてゝさのふしとのはまれらんは
いかなきよのたよりかすろふ

此ノ人ハ命ヲ奉テ一日為ニ辨官ノ由ヲ神明ニ祈リ
請テ拝任ノ之後即チ逝去ノ人也

いかなくゝのちよあふれとりふよわらし

かなしみのおもわろとはいうはよし

是或ル女物ニヲトコ逝去ス彼ノ時不ズ問ハテヤミシ
夏ヲ後悔シテ伏タル夢ニ見ル之ヲ

故将作　顕季

おもひのすむやまちのわすれみなし
こしらへぬやらはすろうし

是ノ薨去ノ之後人夢ニ見ル哥也

わかもちハなくろおもひのきえけさは
このちつくつろしほにひとつなし

是ハ前ノ大相国侍中ニ某ト云者夭亡ノ之後、窮僧ノ
夢ニ異躰ノスガタニモミエケレバ、ナトヤ、
ルモノハキタルゾト問返事ニ詠之ト云〻彼侍
モ件僧モ凡ソ和哥ノ行方不知者ト云ヿ希有
事也ト云〻

臨終ノ哥　希河入道入滅ノ時

風のうへにまよふのおとにながきよ
ノ、まといやとへこ、かし

蓮仲

身ハおもひかとてかしこほとゝおれ
さてのちよもかくやたれなきま

是ハ人ノモトニテ俄ニ絶入タルヲカキイダレ
タリケルトキイキイデテ草ノ露ノアハレニサハ
リケルニ郭公ノナクヲキヽテヨメルナリ

河口重如号山二郎判官代

たゆこなみのこゑをかくほとゝぎす
人やわなゝきちかいたれ

是モ死ナムトシケル時読也

幼児哥

かゝなはしくれぬはゝしくはくはを
おもふよは、ほとはなしといふ

是ハ人ノコノヤツナリケルガ母ノモノヘユキ
タルヲマチカテニシケルノシケル日ヨメル

うくひすよなとかはなのちるちやほしは
こなへやほしまゝやこれしさ

コレハ下ハハノモトニアリケルニチヰサキシチ
ナヘノアリケルヲワカハラノコニハトラセテコノ

トヽコニハハラワセザリケレバウハノヒスノナクヲキ
テヨメル詞也

賤夫哥

きゝわれはいまゝのやよもいもうしよく
あをかわしらうもおさららゆてお

是ハ泉式部稲荷ヘニイリケルニシクレノシケレ
ハミチニアヘリケル牛飼童ノアヲヽスキテギ
セタリケルヲカヅキテウレシキコトナリト云テ
ヤミニケル後ニコノ童式部ガモトニキタリケ

ヒガナニコトニナド。タツ子ケルニ。ヨメル哥也。無キ便
心ノアリケルトナム。但閭巷物語難レ信仰ニ事也

しこはやまのすそのあしやむくれを
ふしこの所をもいふうねくさね

是ハ後綱朝臣ノ伏見ニ侍リケルニ。ヨル。夕ハ
ス ミ。アリキケルニ。アヤシノ宿直童ノ。クチニフ
セリテ。ナカメケル哥也。聞テ之ヲ小袖ヲヌギテ
ミヒケリトゾ。下﨟ノキル。ツクリトイフモノヲハ。
コハタトイフト云〻

乞者哥

とふいかくあはれなるまでいしかれ
ねいまるねともひよこころこん

是ハ人ノ家ニ入テ。乞食シケル法師ニ女ノ
琴ヲヒキテ。コレヲ。ソノ布施ニテカヘリ子ニ
イヒケレハ。ヨメル也。或人ノ云ツ。此乞食ハ一乗沙
弥也云〻

しおこなひのつとめてもおほしけれ
よしもはたのむくはかうとて

或ハ乞者ノツ子ニクルカ東方ニ井タル人ハモノヲトラセス西方ニ井タル人ハツ子ニトラセケレハソコニテ讃メル也

已上佛神父權化聖人故以テ此縁合細羅之衆生併ラ可ク爲ニ出離生死之因ト耳

一　諷文哥

吉備ノ大臣夢違誦文哥

あらちをのかるやのさきにたつしかも
ちかへをすれはちかふとそきく

問ニ夕食ヲ哥

ふなとさへゆふけのかミにものとはゝ
みちゆくひとようらまさにせよ

沐浴間鵼鐘ヲ誦文哥

よひのかねはつかはなれよのゆあみとを
みゝにきゝつゝいひてしものを

夜行ル途中ニ哥

かたしはやえかせにくりにくめるさけ
てゑひあしゑひわれゑひにけり

一 逢死人ニ時ノ哥

たまやるのよそちわれゆくおほちとし
ちるうまちにこかねちわく

一 見人魂哥

たまハみつぬしハたれともしらねとも
むすひとゝめつしたかひのつま

三返誦之男ハ左女ハ右ノツマヲ結ヒテ三日ヲ経テ解之云々

一 鶏鳴時哥

よるなきわわのゝまもとになきはやり
人これさへなかゆくすゑあし

一 志ら虫鳴時哥

志らむしハこゝろはなくまうきくて
かしこまる流かまく野きをなまおれ

一 蛇食時哥

東やまのやまにふねたくは
おろそいくかさのきまへおとし

霍乱諷文哥。

あくたをハいのせわたりてたいはくと
いくさわたりてこゝのせるかし

胸病誦文哥
むねのうへのうおをせすれきかれねたゝき
こいのあしふれらつまもやおん

造酒哥　家持如万葉集
なにとこのふとおわてといひらく
あふいのちもらひたゆんはなは

已上各三返誦之云々

知吹日哥
かんはたれのほしのそてらはまとを
はれてしぬハゆつよなの流き

夜書哥
やちよるや　よしわややちよるや
ゆめかちよるやわのこあれすれ

馬腹病哥
あらなをとわしのきてのことかとる
流なの流るむまたれかてさるむ

又云

ちはやふるちはやきにくにはきはつなま

わかむかしなのれむかおはらやま

庚申セデヌル詞文

しや虫ハいねやさりねやわかとこを

ねたれとねぬそねゝこねて候そ

丞相御所參拜之次尋申云此本次第如何仰云此本ハ清輔手自所令書進二条院之草子也崩御之後故皇后宮令傳給其後自件皇后宮所給領也又尋申云嚢草子名令釋云而此本不候如何仰云然也件釋ハ頗戯言歟仍奏覽之本ニハ依有其憚不書之歟我ニ書テ給ヘりし本ニハ件本ハしニ書タりキ其本六角東洞院炎上之時焼之此名者智嚢也又才学嚢也入嚢常随身仍有此名歟

今書進㕝等皆虚㕝歟然者又虚言袋也
釋タリシ與記ハ令賜後令書注御歟實此本
頗以賞重深祕歟不可披露究賢了
建久二年二月一日以或證本交合了
或本奥書云
此書日有風聞尋召　從内裏懇望之叡覽
之後相具御造帋可書進之由有　宣旨乃
書写平治元年十月三日進覽之奇怪雜記
在生之間及天覽之条不便〻〻兼又不可
及外見之由有其誡可祕云〻
永仁四年九月廿五日書写之　　在判
執筆中臣在判
觀應三年壬辰於茅屋終書功了雖為学業
之妨可備讃佛之因云〻
執筆長坂
文字散〻之間頗雖備證本僻字多〻有之
必可挍他本者也
自中書相渡了　　為旨

雖爲他家ノ之本尚可秘之ヲ

于時慶安元年戊子初秋上旬於武州江府

書寫之訖　　清尋

貞享二年乙丑仲春吉辰

京姉小路堀川東江入町

中川茂兵衛

同　弥兵衛